

事務所通信 リソース

10月号 VOL. 52

税理士法人 中央総合会計

〒070-0037

旭川市7条通13丁目 59 番地 4

TEL : 0166-25-4131 0166-23-0010

FAX : 0166-25-4132 0166-23-7543

URL : <http://csk-i.com/>

E-mail : cyuou@csk-i.com

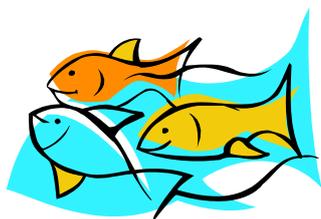


世界中で大ヒットを記録したハリウッド版の『GODZILLA(ゴジラ)』ですが、すでに続編が決定しておなじみの「モスラ」「ラドン」「キングギドラ」の三大怪獣も登場するそうです。ゴジラの誕生は、さかのぼること60年前の1954年。今年めでたく還暦を迎えたゴジラ(所長井内、増田税理士も!)に、赤いチャンチャンコは似合うかな。



三匹のタイを捕まえろ!

魚といえば北海道ではサケ、全国的には鯛(タイ)でしょうか。ところで、人の中には三匹のタイがいると言われています。それは「愛されタイ」、「認められタイ」、「役に立ちタイ」。特に職場では認められタイ・役に立ちタイはとても大きな存在で、まちがいに真鯛(マダイ)クラスではないでしょうか。人は職場で認められない・役に立たない状態では誰でもが持っている輝きを失い、暗くなり、病気になり、退職という結果になりかねません。職場全体が暗くなりますね。又、このような人が社長か上司だと、部下を必要以上に批難することにより、自分の「認められタイ」「役に立ちタイ」という欲求を満たすこととなります。「俺はできるのに) どうしてこんな事できないんだ、なんでこんな事わからないんだ」、「できないやつだ、給与分働け」…。言われた方は暗くなります。虫でも明るい方へ飛んでいきます。暗い職場ではお客様は増えないのではないのでしょうか。



では、どうしたら社員が「認められたい」、「役に立ちたい」という気持ちを持つ事ができ、明るくなれるのか。まず、認められタイを満たす第一歩はあいさつだと思います。相手をしっかり見て明るくあいさつをして存在を認めてあげる。朝のあいさつだけで相手をチャージできれば名人級ですね。そして、時には良いところを見つけて相手に伝える。役に立ちタイを満たす方法は、できたことを認めてあげることだと思います。どんな社員でもなんらかの役に立つことを行っています。つまり、欠点を見るのではなく長所を見て、伝えて、感謝することです。「人の短所を指摘するのは3才の子どもでもできる」といいますが、長所を見つけてさりげなく伝えるにはなかなかの人間力が必要です。こんな事で「認め、感謝すると勘違いする」「これで良いと思い成長が止まる」などと考えず、まずはやってみましょう。(自分自身に言っています。)

明るい職場を目指してお互いがんばりましょう。

中央総合会計 代表税理士 井内 敏樹



この度9月末をもちまして、中央総合会計を退職させて頂くことになりました。

お取引先の皆様におきましては、大変お世話になりました。お客様には、私の至らぬ点多々あった事と思いますが、優しくお声をかけて頂きとても嬉しく、社長を始め担当者様とのお話しは、勉強にもなり刺激にもなりました。お客様との出会いで学ばせて頂いた沢山の事を糧にこれからも成長していきたいと思えます。

職場の仲間との別れもとても淋しく感じています。淋しいと感じる程、明るさ・優しさ・時には厳しさ!?(←これ内緒ですよ。) (あっ…、バレンターン!!) が、たくさんたくさん溢れた職場です。今後もそんな元気や優しさが溢れた中央総合会計をどうぞよろしくお願い致します。

これからも皆様のなご一層のご繁栄をお祈りしております。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

【社長の人柄を磨くために九思あり】

商売がうまくいっているケースを見ると、結局は社長の人柄がものをいうのだろうと考えさせられることが多々あります。「100万分の1グラム」という世界最小の歯車を生み出して、一躍脚光を浴びた樹研工業の松浦元男社長は、地元の暴走族などを社員として受け入れてきたことでも知られています。創業以来、人の採用は先着順。学歴も国籍も性別も問わず、履歴書も見なければ面接も試験もなし。「誰もが無限の可能性を秘めた存在」が松浦社長の



のモチーで、その背景には「人は本来“善い生き物”」という前向きな姿勢で人を信用しようとする気持ちがあるようです。成果主義や合理主義とは正反対の松浦流経営手法を、「そんな精神論は聞き飽きた」と思う方もいるかもしれませんが、松浦社長自身も最初は「こいつらで大丈夫か?」と疑心暗鬼だったそうです。しかし、入社したばかりの社員には工場で徹底的に基本を叩き込み、世界に通用する技術者に育て上げる仕組みを整え、何年もかけて人材を育成した結果が「世界最小の歯車」につながりました。前向きな姿勢で人を信じる気持ちがあれば社員は期待以上の成果を出す。この信念は、そのまま松浦社長の人柄に通じているといえるでしょう。リーダー(君子)の資質について多くの言葉を残している孔子は、『論語』の中で「君子に九思あり」と説いています。孔子自身が立派なリーダーでありながらも、常にこの「九思」をもって自らを磨いていたのです。

1.物事の本質を明確に見ること 2.人の話はちゃんと聞くこと 3.穏やかな表情を保つこと 4.謙虚にふるまうこと 5.言行一致で誠実に話すこと 6.仕事は慎重かつ尊敬の念を持って行うこと 7.疑問があったら質問すること 8.怒るときはしこりが残らぬようにすること 9.うまい話にはのらぬこと

社長の人柄は多かれ少なかれ商売に影響を与えるようです。だとすれば、九思の実践は容易ではありませんが、自分を成長させる糧として、ひいては商売を成功させる策のひとつとして先人の教えを心に刻んでおきたいものです。

【今月の教えてキーワード:企業年金】

企業が従業員のために実施する私的年金制度。退職時に一時金を支払ったり、長期間に渡って年金を支給する仕組みで、公的年金に上乗せする「確定給付企業年金」、厚生年金の運営の一部を代行する「厚生年金基金」、企業が拠出した掛け金を従業員が運用しその運用実績で給付額が変動する「確定拠出年金」などに大別される。日本の年金制度は国民年金、厚生年金という二つの公的年金に企業年金を加えて三階建てと呼んでいる。